

令和 4 年度 仙台市公民館運営審議会 事業視察実施概要

1 住民参画・問題解決型学習推進事業

- (1) 視察事業名 「かむりの里いきいきプロジェクト」
(根白石市民センター・泉区中央市民センター)
- (2) 実施内容 別紙「市民センター事業説明書(住民参画・問題解決型学習推進事業)」のとおり
- (3) 実施日時 令和 4 年 9 月 18 日(日) 10:00~12:30
- (4) 実施場所 見松寺(泉区西田中字朴ノ木山 4)
- (5) 事業参加者数 43 名(うち一般参加者 35 名、企画員 8 名)
- (6) 視察委員 伊藤美由紀委員、大内幸子委員、牧靖子委員

2 子ども参画型社会創造支援事業

- (1) 視察事業名 「中山キッズ」(中山市民センター・青葉区中央市民センター)
- (2) 実施内容 別紙「市民センター事業説明書(子ども参画型社会創造支援事業)」のとおり
- (3) 実施日時 令和 4 年 10 月 9 日(日) 10:00~11:30
- (4) 実施場所 中山市民センター
- (5) 事業参加者数 15 名(うち一般参加者 9 名、企画員 6 名)
- (6) 視察委員 相澤雅子委員、熊谷敬子委員、菅原正和委員、鈴木京子委員、
松田道雄委員、三浦和美委員

3 若者社会参画型学習推進事業

- (1) 視察事業名 「まいぷろ(Miyagino Young PROgram)」(宮城野区中央市民センター)
- (2) 実施内容 別紙「市民センター事業説明書(若者社会参画型学習推進事業)」のとおり
- (3) 実施日時 令和 4 年 10 月 22 日(土) 14:00~16:00
- (4) 実施場所 宮城野区中央市民センター
- (5) 事業参加者数 11 名(うち一般参加者 0 名、企画員 11 名)
- (6) 視察委員 市瀬智紀委員、幾世橋広子委員、佐藤正実委員

市民センター事業説明書(住民参画・問題解決型学習推進事業)

事業名	担当
<p align="center">市民企画会議 かむりの里いきいきプロジェクト</p>	<p>根白石市民センター（地区館） 泉区中央市民センター（区拠点館）</p>
<p>1 事業の目標（ねらい）</p>	
<p>泉西部地区は、歴史と伝統、自然や食文化等あらゆる魅力に恵まれた地域であるが、都市化と高齢化の進行により、それらを次の世代に残し伝えることが困難になりつつある。また、地域を牽引してきた人々の高齢化も顕著であり、若い世代の活躍と継承、地域の世代交代が期待されている。</p> <p>【根白石市民センター】 若い世代の企画員を選定し、地域の現状や未来について若い感性で話し合う場を提供するとともに、無理なく参加でき、地域内で活躍できるよう事業を企画立案する。</p> <p>【泉区中央市民センター】 根白石市民センターと連携し、地域特性に応じた市民協働による地域づくりを推進する。</p>	
<p>2 事業内容（手法）</p>	
<p>【根白石市民センター】 市民センターが橋渡しとなり、地域の伝統や振興の中核を長らく担ってきた住民を企画会議のスーパーバイザーに迎える等し、若い世代が安心して地域を担う人と人とのつながりを育み、積極的な地域活動とスムーズな世代交代につなげることを目指す。（平成29年度から開始。令和4年度の企画員は地域住民16人が登録し12人前後で運営、うち新規参加者4人）</p> <p>地域課題やニーズ共有のための話し合い、地域活性化を目指した事業の企画会議 企画会議で決定した事業の実施に向けた会議</p> <p>【泉区中央市民センター】 根白石市民センター事業の支援 企画会議への参加、事業成果の情報発信、区内市民センター事業担当者に対する説明会等</p>	
<p>3 新型コロナウイルスによる影響</p>	
<p>【根白石市民センター】 令和3年度は8月20日から9月12日まで、まん延防止重点措置が発令され、9月中の市民センター講座等をすべて中止とし、市民企画「お寺でヨガ・坐禅」も10月に延期とした。そこで、企画会議を重ね感染対策をより厳格化し、徹底した対策を講じることで10月に実施することができた。</p>	
<p>4 令和4年度の取組み（予定）</p>	
<p>【根白石市民センター】 昨年実施したお寺シリーズ第2弾として「お寺で禅クラフト」を開催し、地域資源について学び、地域の竹を使い竹クラフトを行う。また、今まで市民センターが主体となって開催された「凧揚げフェスタ」は、令和4年度に地域団体が主体となって運営できる体制を構築する。</p> <p>【泉区中央市民センター】 引き続き、根白石市民センター事業の支援、事業成果の情報発信、区内市民センターに対する説明会を開催する。</p>	

5 これまでの経緯（成果）

【根白石市民センター】

令和2年

・企画員の世代若返りへの取り組み。各種団体への聞き取り調査・事業趣旨の整理等事前準備を行った上で個別に声かけを行った結果、20～40代の地域住民6人が企画員として参加。事業開始時には館長のプレゼンによるキックオフミーティングも行った。

・新たな取り組みとして「根白石村民歌」を復活させた動画の発表会を実施した。動画の作成やYouTubeへの掲載を通して若い世代が活躍し、地域の歴史を振り返る機会となった。

・もう一つの企画の「凧揚げフェスタ」は、学校・PTA・育成会等多くの地域団体からなる「凧揚げフェスタ実行委員会」と協働して実施した。伝統文化の継承と世代間交流につながった。

・各事業を通して、企画員同士の交流が進み、地域について考える若い世代のコミュニティが広がっている。

令和3年

・若い世代の企画員が話し合いを重ね、令和3年度の新たな取り組みとして、地域資源を活かした事業「お寺でヨガ・坐禅」を企画した。企画員のみによる運営を前提に実施したこの事業が参加者から好評を得られたことで、地域の魅力発信とともに企画員の成功体験となり、企画員たちの連帯感をさらに深めることができた。

・「凧揚げフェスタ」は、学校・PTA・育成会等多くの地域団体からなる「凧揚げフェスタ実行委員会」と協働し、世代間交流が図られた。

・市民センターホームページのみならず企画員自らがInstagramやフェイスブックでイベント内容を拡散するなど、幅広い情報の共有、発信を行うことができた。

・各事業を通して企画員と地域住民との交流が進み、新たな企画員が加わるなど、地域における若い世代のコミュニティ活動が活性化している。

【泉区中央市民センター】

市民や市民センター職員に対し、事業の成果や市民協働による地域づくりの意義を継続して伝えている。

6 課題・改善点（評価）

【根白石市民センター】

市民参画型事業の目的である「市民が自ら学ぶことで主体的な活動が地域で多様に展開できる」の理解浸透は達成できている。今後は自らの団体が町内会・観光協会・商店会などと連携を取りながら企画運営を進めていけるよう横の連携強化が課題となる。

令和4年度になり新たな企画員が参加したが、どのように発展させてきたのか等の情報を共有していく必要がある。

【泉区中央市民センター】

市民センターの事業から始まり、参加者たちが任意団体を立ち上げ、自主的に活動していく好事例として、区内だけでなく市内外に積極的に発信していく必要がある。

7 今後の展開・方向性

【根白石市民センター】

今年度（令和4年度）で、複数年事業最終年となる。今の企画員たちで任意団体の立ち上げを行い今後は自主的な活動を行っていくが、市民センターとしても可能な限りサポートを継続して行っていく。また、来年度からは新たな事業の立ち上げに向けて、地域課題の把握や企画員の選定などの準備を進めていく。

【泉区中央市民センター】

区拠点館として、根白石市民センターが行う事業について今後も連携しながら、同館の取り組みを他の市民センター職員に対する紹介事例として活用する等、住民参画・問題解決型学習推進事業の趣旨を踏まえた市民センター事業の推進に努める。

市民センター事業説明書(子ども参画型社会創造支援事業)

事	担当
中山キッズ	中山市民センター（地区館） 青葉区中央市民センター（区拠点館）
1 事業の目標（ねらい）	
<p>中山市民センター管内には、中山小学校や川平小学校、中山中学校、仙台青陵中等教育学校など多くの教育機関が所在しており、この地域の特色を生かし、これらの機関と連携を図りながら事業を進めていくことで、地域住民と児童生徒が交流し、地域全体で子供たちの健やかな育ちを支えていくことにつなげていくもの。</p> <p>地域の小学生を対象に、仙台青陵中等教育学校と企画した学校では経験することが難しい体験の場を提供することで、豊かな知識と健やかな育ちを支える一助とするとともに、地域に関心を持ち、地域を支える次世代の人材育成を目指す。</p>	
2 事業内容（手法）	
<p>令和3年度までそれぞれ実施していた中山市民センターの「中山キッズ」、青葉区中央市民センターの子ども参画型社会創造支援事業「青陵インパクト」を融合・発展させた事業として令和4年度より実施している。</p> <p>【中山市民センター】 仙台青陵中等教育学校の生徒が企画員となり、地域の小学生を対象とした講座を企画・運営する。（今年度の企画員は中学生11名、高校生5名の計16名） 仙台青陵中等教育学校にて、平日の放課後の時間（16：15～17：30）に月1回の定例会を実施し、地域課題についての話し合いから講座の企画や準備、当日の運営までを担っている。</p> <p>【青葉区中央市民センター】 中山市民センター事業の支援、事業成果の情報発信を行うとともに、区内市民センター事業担当者に対し、子ども事業における地域づくりについての理解を深めるための情報提供も行っている。</p>	
3 新型コロナウイルスによる影響	
<p>感染の拡大状況をみながら、広い会場（学校の食堂）の確保や参加人数の制限、個々で作業が進められるような運営の工夫などを行いながら事業を実施している。</p>	
4 令和4年度の取組み（予定）	
<p>月1回の定例会を継続的にいながら、以下のイベントの実施に向け準備を進めてきた。</p> <p>[10月8日] 小学校高学年対象「キンボールで遊ぼう」 [10月9日] 小学校低学年対象「ペーパーアートを楽しもう」 [11月3日] 青葉区民まつり(ブース出展)「金魚（プラ板で作成）つり、ボーリング、工作体験」</p>	
5 これまでの経緯（成果）	
<p>【中山市民センター】 平成30年度から「中山キッズ～君はチャレンジャー」の講座を実施。 [H30] 美術館たんけんたい、ベガ号による星空観察、工作、調理実習 [R元] 虫の声を楽しむ会、ベガ号による星空観察、創作だるま作り [R2] JLと遊ぼう、「オーロラ・日食・星空の旅」（講話）、オイルパステルを使ったクリニカルアート体験 [R3] 「中山キッズin青陵インパクト」を開催 「青陵インパクト」と共催し、「中山キッズ」の企画・運営を青陵インパクトのメンバーが行う連携を実施（全2回実施）。中山小学校・川平小学校に参加募集のチラシを配付し計12組の親子が参加した。1回目は小学校低学年親子を対象の「楽器作り」、2回目は小学校高学年を対象の「スライムの実験」を実施した。</p>	

【青葉区中央市民センター】

平成30年度から子ども参画型社会創造支援事業「青陵インパクト」を実施。

仙台青陵中等教育学校の生徒が、「地域社会の一員として自分たちに何ができるか」という社会参画のあり方を考えるきっかけになるツールとして作製した小学生向けのカードゲームを体験することを通して、地域活動に関心を持つ小学生を増やすことを目指して実施。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でカードゲームを使った活動の展開が困難となったため、インパクトメンバーと話し合い、「自分たちが地域のためにできること」をテーマに、地域の小学生を対象としたイベントの企画・運営に挑戦することとし、中山市民センターと共催した「中山キッズin青陵インパクト」を実施した。

6 課題・改善点（評価）

現在は、仙台青陵中等教育学校の生徒のみに企画員としての参加を呼び掛けているが、中山市民センターの管内には青陵中等教育学校の他にも小中学校があり、さらに事業の輪を広め、より多くの児童生徒が「中山キッズ」に参加し、幅広い交流が生まれる機会を創出していけるよう、働きかけを継続していく必要があると捉えている。

7 今後の展開・方向性

【中山市民センター】

企画員を仙台青陵中等教育学校だけではなく、中山地域に住む中高生へと広げていくことで、より地域に関心をもつ子どもたちの育成につながると考える。また、市民センター利用団体や地域住民への情報発信の充実等、地域全体で子どもを育てていく取組、幅広い交流が生まれるような事業展開を目指す。

【青葉区中央市民センター】

区拠点館として、中山市民センターが行う事業について今後も連携しながら、同館の取り組みを他の市民センター職員に対する紹介事例として活用する等、事業手法の他地域への水平展開も図りながら市民センター事業の推進に努めていく。

市民センター事業説明書(若者社会参画型学習推進事業)

事業名	担当
Miyagino Young PROgram ～まいぷろ～	宮城野区中央市民センター（拠点館）
1 事業の目標（ねらい）	
宮城野区の「沿岸部」や「仙台駅東エリア」等、区内にある地域の魅力を取材し、web記事または動画の制作・発表を通じて、①様々な人々と協働し、身近な地域をより良くすることへの関心を高める。②社会・地域の一員として、自発的・主体的に行動できる人づくりを行う。	
2 事業内容（手法）	
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生や大学生15名程度募集。事業へ参加することへの思いを共有し、宮城野区内の地域の魅力を探る。 ・学生自身のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など、社会人として必要なスキルを磨く。 ・専門家と連携し取材や記事の作成の仕方を研修として学ぶ。 ・メンバーが取材したい取材先やテーマを考えて決め、取材活動を行う。 ・講師の指導をいただきながら記事を推敲し、web記事や動画などで情報発信していく。 ・成果を発信できる成果物として、活動をまとめたリーフレット等の製作も視野に進めていく。 ・地域貢献のために、“今、自分ができること”を意識し、考え、実行できるよう支援していく。 	
3 令和4年度の取組み（予定）	
（※別紙年間活動計画あり）	
4～5月 尚綱学院高校、宮城野高校で広報を行い、参加者を募る。 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の登録は14名（尚綱学院高校11名、宮城野高校3名）。 事業へ参加することへのそれぞれの思いを共有してから、関係づくりを行い、活動を開始する。	
7月 取材の専門家を講師に迎え、取材のノウハウを学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーそれぞれが取材したい取材先やテーマを決め、グループで取材を行う。（以下、取材先と日程） <ol style="list-style-type: none"> ①夏まつり「すずめ踊り」…7月31日（日） ②アンパンマンミュージアム…9月29日（木） ③おすすめフード…10月9日（日） ④歴史民俗資料館…10月9日（日） ⑤子育て支援「いわきり子育てネットワーク」…10月15日（土） 	
12月 発表会を実施し、講師からアドバイスをいただく。	
1月 成果報告会での報告に加え、TOHOKO360などのニュースサイトにて、Web記事や動画を掲載する。	
4 これまでの経緯（成果）	
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の広報を広げたことで、尚綱学院高校に加え、宮城野高校からも3名の参加があった。（全14名） ・事業運営については、参加者同士が安心できる関係づくりを行い、参加者の主体性や思いを大切にしながら進めてきた。 ・事業のゴールを確認したことで、参加者から取材の基本について学びたいとニーズがあり研修を実施した。取材の基本を専門家から学び、取材に向けて準備を進めてきた。 ・仙台市市民活動サポートセンターから情報提供やサポートをいただき、年を経るごとに協力体制を深められている。 	
5 課題・改善点（評価）	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題は、新規参加者の確保や既存参加者の継続、学生につける力の明確化（事業評価）、地域との関わり、事業後のフォローアップである。事業に参加したことが、将来の進路決定に有効に働くような仕掛けづくりが必要であると考えている。 	
6 今後の展開・方向性	
<ul style="list-style-type: none"> ・大学や高校との連携を広げ、活動の幅を広めていく。 ・令和5年以降、宮城野区沿岸部の賑わい創出の一役を担えるような事業へと進化させていきたい。 ・参加者自身が自ら学びを進めていくための、参加者自身のネットワーク構築を行う。 ・地域のまちづくりに積極的かつ継続的に関わっていくために、NPOや地域団体との連携強化を図っていく。 ・地域メディアとして区内ならびに市内で知られる存在となる。 	